MITSUI OCEAN CLUB

Vol.103 2026AW | Magazine 海



［特集］新しい船旅が、花開く。

船旅の新章。

MITSUI OCEAN CLUB

特集

新しい船旅が、花開く。

海を渡る時間にも、訪れる土地にも、
心を動かす出会いがあります。
もてなしにくつろぎ、料理を味わうひととき。
土地の風景や文化にふれ、
日本の豊かさを知るよろこび。
受け継がれてきた船旅の魅力に、
新しい楽しみを重ねた
三井オーシャンサクラとともに、
さらに広がる「日本の美しい船旅」へ。

約9割の客室に備わるプライベートベランダ。潮風を感じ、移りゆく海の景色を眺めるひとときも、船旅の醍醐味。
※画像はイメージです。

Editor's Letter

船で過ごすことほど、
すばらしいことはない。

——作家 ケネス・グレアム『たのしい川べ』より

さあ、この船と、まだ知らない物語へ。

『たのしい川べ』には、生まれて初めて船に乗ったモグラが登場します。川へ漕ぎ出し、初めて知る船の心地よさに目を輝かせるモグラに、友人の川ネズミが語るのがこの言葉です。船に身を委ねれば、いつもの景色も違って見える。風や水の音に耳を澄ませながら進む時間そのものが、心を満たしてくれる——。それは、クルーズの旅にも通じる喜びかもしれません。今、新しい船が海へ漕ぎ出しました。水平線の向こうには、まだ知らない景色と、新しい出会いが待っています。これから訪れる港、人、味わい、そして船上で生まれるいくつもの時間。その一つひとつが旅の記憶となり、やがてこの船だけの物語を紡いでいくのでしょう。

MITSUI OCEAN CLUB Magazine 海
Vol.103 2026AW

03 ［特集］新しい船旅が、花開く。
10 ［連載］三好和義 旅の記憶
12 ［連載］お客様の乗船便り
14 ［連載］船に宿る、美しい謎。
15 INFORMATION



UNWIND

1

海の上に、自分の時間がひらいていく。

海を望む上質な空間に身をゆだね、四季の恵みを食卓で味わう。心を尽くしたもてなしに、気持ちまでくつろいでいく。三井オーシャンクルーズが届けるのは、そんな安らぎと喜びに満ちた「日本の美しい船旅」だ。

２０２６年９月、三井オーシャンフジの姉妹船として、三井オーシャンサクラが晴れやかに船出した。客室は全室海側のスイート仕様で、約９割にプライベートベランダを備える。ゆとりあるクローゼットやバスタブもあり、さながら海を渡るリゾートホテルだ。朝食はルームサービスで頼み、ベランダで海を眺めながらゆっくりと味わい、その日の過ごし方を思い描く。そんな一日の始め方もいい。

全長約２００mのコンパクトな船体にはレストランやバー、ラウンジに加え、スパやブティックなど多彩で充実した施設が揃い、思い立ったときに気軽に足を運べることも、船で過ごす時間を豊かにしてくれる。

この船には、にっぽん丸や三井オーシャンフジでお客様を迎えてきた乗組員も多く、温かなもてなしが息づいている。「お客様にとって、この船で過ごす時間が心に残るひとときとなりますように、という願いを込めて、『ようこそ！』という気持ちを笑顔に乗せてお迎えしています」（ホテルゼネラルマネージャー　阿部 哲也）。その笑顔に誘われて自然と会話を重ねるうちに、細やかな気遣いに触れるたびに、乗組員と少しずつ親しくなっていくのも、この船旅の醍醐味だ。

気の向くままに船内をめぐれば、廊下や階段のアートにも目が留まる。複雑に折り畳まれた紙で海景を表現した作品や絵画、彫刻が並び、まるで美術館を巡るようだ。とくにデッキ４に展示されている写真家・三好和義氏による10点の作品が印象的だ。小笠原、屋久島、熊野など、寄港地から足を延ばせる土地を中心に選ばれており、知っているつもりの日本にも、まだこんなにも豊かな表情があったのかと目を奪われる。

船内には、本格的なショーを間近で観られる「オーシャンステージ」や、一口サイズのパンやスイーツを味わえるカフェラウンジ「MITSUI OCEAN スクエア」もある。なかでも注目は、デッキ８のグランドプールそばの足湯だ。「リゾート感溢れるプールサイドに、日本人になじみ深い足湯が登場しました。寒い季節でも、心も体もポカポカに温まりながら至福のときを過ごしてください」（ホテルゼネラルマネージャー　川野 惠一郎）。寄港地の散策を楽しんだ後は、足湯でひと息。座席の小さなテーブルに飲み物を置き、歩き疲れた足を湯に浸す。頬には海風、足元には湯の温かさ。寄港地での出来事を語り合っても、ただ海を眺めながらゆっくり過ごしても心地よい。⚓



ホテル
ゼネラルマネージャー
阿部 哲也



ホテル
ゼネラルマネージャー
川野 惠一郎



総料理長
中山 勝利

[1]港から港へ、人と土地の新たな出会いをつなぐ。[2][3]思い思いに過ごせる、ゆとりの空間と設えにこだわった7種の客室。[4]船内の多彩なアートのほか、MITSUI OCEAN スイートには東端唯氏の漆作品も。[5]～[7]移ろう海の景色を楽しめる開放的なデッキ。デッキ8中央のグランドプール周辺には、足湯や温水プール、屋外レストラン&バーが集まる。[8][9]本格的なショーやカフェでのひと息を、気の向くままに楽しめる。 ※画像はすべてイメージです。



9



8



4



3



2


1

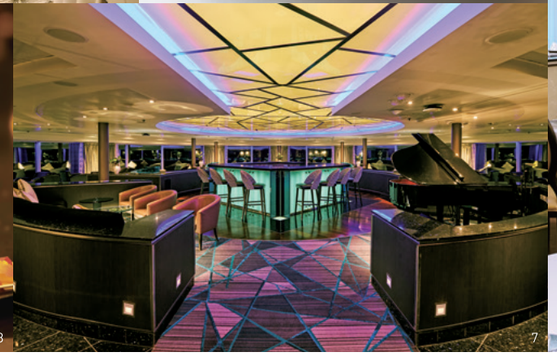

2


3


4


5


6


7


8

歴代の料理人が磨き、受け継いできた船上の味。そのこだわりは、三井オーシャンサクラの食事にも息づいている。にっぽん丸で親しまれた名を継ぐのは、新設された「寿司バー潮彩」。〝幻の銘木〟と呼ばれる「鳥海山神代杉」の一枚板をカウンターに設えた空間には、落ち着きと格調が漂う。「寿司おまかせコース」（要予約・別料金）では、握り11貫に、土瓶蒸しや銀鱈京粕漬け焼きなどの料理、甘味まで堪能できる。カウンターに座れば、目の前で寿司を握る職人の手さばきも楽しめる。背後の格子戸には日本酒が並び、寿司に合わせて気軽に味わえるのもいい。

メインダイニング「レストラン桜」の夕食は、和食と洋食の日替わりのコース料理。予約不要なので、ショーや観光の予定に合わせて訪ねられる。世界各国の料理が並ぶビュッフェの「テラスレストラン八重」や、三井オーシャンフジでも人気の三國清三氏監修「北斎ファインダイニング」（事前予約可能・別料金）も揃い、食事を選ぶ楽しみが尽きない。

「可能な限りお客様が求めるものに近い料理を提供し、三井オーシャンサクラにしかない驚きや感動をお届けできるよう努めています」（総料理長　中山 勝利）。一人ひとりの期待に応えようとする熱意と、新たな味への探求心。その姿勢が、またこの船で味わいたいと思わせる魅力を育んでいる。

食後の余韻に浸るなら、にっぽん丸のラウンジから名を継ぐ、船首の「バー海」へ。この船限定の「夜桜バイオレットフィズ」を味わい、その日の景色や料理を語り合う。会話の合間には、ピアノの生演奏に耳を傾ける。

夜の海原を静かに進み、三井オーシャンサクラは新たな航跡を描く。受け継がれた味と心づくしのもてなし、そして、この先の多彩な体験への期待を乗せて。

[1]～[3]「寿司バー潮彩」は夕食後、バーとして営業。日本酒やカクテルを楽しめる。[4]～[6]レストランで味わう、船上の食の楽しみ。三國清三氏監修の「北斎ファインダイニング」では、三井オーシャンフジとは異なるコースを楽しめる。[7][8]海を一望するバーで、旅の余韻を一杯に重ねる。※画像はすべてイメージです。

味わいともてなしに、心満ちる船旅。

SIGNATURE SELECTION

三井オーシャンクルーズの船旅に、新たな味わいが加わりました。船上の時間に寄り添う、ふたつの特別な一杯。いずれも三井オーシャンサクラのデビュークルーズから提供しています。

船上の時間に寄り添う、ここだけの一杯。



人と海、旅の記憶を結ぶ一杯

オリジナル焼酎「knot（ノット）」

宮崎県日南市飫肥で1818年から続く小玉醸造とつくり上げた本格芋焼酎。芋の選別から仕込み、蒸留、ブレンドまで手仕事を重ね、奥行きのある味わいに仕上げました。名には船の速さを表す「ノット」と、人や土地、海と記憶をつなぐ「結び」の意味を重ねています。「すっと体になじみ、心をほどいてくれるような焼酎を目指しました」と杜氏・金丸潤平氏。手造り麹によるやわらかな甘みと軽やかな余韻が特長です。



小玉醸造株式会社　造り手の皆さん



海の景色と味わう、南仏生まれのワイン

三井オーシャンクルーズ オリジナルワイン

南フランス・ラングドック地方で、ソムリエの渋谷康弘氏とD.W.E.社のトーマス・ドゥーロ氏が畑の区画選びから醸造まで手掛けました。「目指したのは、肩ひじを張らない上質なリゾートに似合うワイン。豊かな果実味と、料理とのバランスを大切にしました」と渋谷氏。白のシャルドネは天ぷらや寿司などに、赤のカベルネ・ソーヴィニヨンは肉料理やチーズによく合います。船上の食卓に寄り添う2種類の味わいです。



ソムリエ　渋谷康弘氏

船だから出会える、日本がある。

三井オーシャンサクラならではの旅づくりに込めた想いとこだわり。
商品造成などを担う営業戦略部商品企画グループ長に、これから届けたい体験を語ってもらった。



営業戦略部
商品企画グループ長
田中 佑典

受け継ぐ絆が新たな体験を生む

自分たちも訪れたいと思える場所、お客様に見ていただきたい景色。そんな想いから、三井オーシャンサクラの旅づくりは始まります。名所を巡るだけでなく、海から近づく島影や入港までの景観も楽しんでいただきたい。そうした船だからこそ味わえる旅を届けたいと考えています。

その魅力を支えるのが、全長200m以下のコンパクトな船体と最短1泊からの多彩な旅程です。大型船では寄港が難しい離島や地方の小さな港を訪ねることができる機動力を生かし、まだ出会ったことのないさまざまな日本の魅力をご紹介していきます。

例えば「飛んでクルーズ沖縄」では、石垣島に加え、個人旅行では組み合わせにくい与那国島や粟国島を巡ります。「飛んでクルーズ北海道」では、利尻島・礼文島と知床・羅臼を組み合わせ、海から望む雄大な自然を満喫。「世界遺産 小笠原クルーズ」では、美しいボニンブルーの海を進み、船でしか訪れることのできない島々へ。そして出雲大社に近い大社港では、神々が海から訪れたという伝承をなぞるように、お客様も海から上陸します。自然の絶景から神話の世界まで、船だからこそ出会える日本の魅力が広がっています。

こうした旅をさらに特別なものにするのが、寄港地との長年の信頼関係です。例えば寄港地に一晩停泊する「プレミアムクルーズ」では、熊野速玉大社での野外コンサートや、屋久島での縄文杉トレッキングなど、その土地でしかできない企画を実現。2027年5月6日出発の「春の日高プレミアム」では道成寺境内に特設舞台を設け、宝生流の家元がこの公演のためだけに特別にアレンジした能「道成寺」をダイジェスト版で披露する予定です。

こうした特別な体験は、地域の方々との協力があってこそ実現できるものです。東北の夏祭りでも、乗船客全員が楽しめる専用の桟敷席を用意。客室のカテゴリーにかかわらず、追加代金なしでお楽しみいただけます。長年にわたり各地の港を訪ね、地域の方々と交流を重ねてきた歴史が、新しい体験を生み出す力になっています。

これからは、夏祭りや花火を楽しむ旅など、にっぽん丸から受け継ぐ企画を大切にしつつ、三井オーシャンサクラならではの新たな魅力を加えていきます。目指すのは、船と寄港地、地域の人々が一体となった旅づくり。お客様だけでなく、寄港した地域の方々にも船の訪問を喜んでいただきたい。その一環として、寄港地の魅力をより多くのお客様に知っていただけるよう、多くのクルーズに追加代金不要の半日寄港地観光ツアーを導入。初めて訪れる場所でも、その土地を代表する見どころを気軽にお楽しみいただけます。

平均3～4泊のショートクルーズを中心に展開する三井オーシャンサクラは、初めての船旅や長期休暇が取りづらい現役世代にもおすすめです。「寄港地だけでなく、船からの景色や地域の方々との出会い、船内での時間も、一つの物語として心に刻んでいただきたい」。そんな思いを乗せて、三井オーシャンサクラは日本各地へ。「今度はこの船でどこへ行こう」と、次の旅を思い描いていただけたら何よりうれしく思います。⚓

三井オーシャンサクラ
2027年5月6日出発
「春の日高プレミアム」

詳しくはこちら


5


1

7

6


4


3


2

［1］春の「世界遺産 小笠原クルーズ」ではザトウクジラとの出会いに恵まれることも。［2］地元の船が並走する、小笠原恒例のお見送り。［3］2026年9月の館山への初寄港での歓迎セレモニー。館山は桟橋のこけら落としで、にっぽん丸が初めて寄港したゆかりある港でもある。［4］2018年頃、出張開催中の輪島朝市では地元の方との交流も。［5］青森ねぶた祭では勇壮なねぶたを間近に楽しめる。［6］［7］「春の日高プレミアム」では、今クルーズのための特別な「道成寺」を道成寺で鑑賞できる。

写真家・三好和義

旅の記憶

和歌山・串本



和歌山県串本町の橋杭岩は「日本の朝日百選」に選ばれている朝日の名所です。この撮影をした時も暗いうちに宿を出て撮影準備をしました。もちろん名所ですから平日にもかかわらず多くのカメラ愛好家の姿がありました。そして、朝日が昇り始めます。太陽に神が宿ったような神聖な気持ちになりました。

写真家・三好 和義

1958年徳島生まれ。「楽園」をテーマに世界各地を撮影し、1985年に木村伊兵衛賞を当時最年少で受賞。
近年は日本文化にまつわる撮影も多い。最新刊は、見開くと1mになる超大型本『法隆寺』(小学館刊)。

お客様の乗船便り

憧れの景色に出会い、その土地の文化に触れる。船旅で訪れた先には、心に残るひとときがあります。今回は、お客様から届いた、寄港地での思い出をご紹介します。

イラスト：PUNIP cruises／中村 辰美

船旅で心に残った出来事や思い出をお寄せください。
アンケートにご回答いただいた方の中から、抽選で賞品をプレゼント。詳しくはP15「アンケートのお願い」をご覧ください。

冬の夜空に咲いた、忘れられない花火。

毎年、別府の海上で花火を楽しんできましたが、にっぽん丸の最後のクリスマスクルーズでは、これまでで一番近くに、花火を見ることができました。感動とともに、これが最後なのかという寂しさも込み上げてきました。人生で見てきた花火の中でも、ピカイチの思い出です。

（兵庫県・70代）

昼も夜も心を動かされた、青森の旅。

東北の夏祭りツアーで訪れた青森が特に思い出深いです。昼は三内丸山遺跡で古代の息吹を感じ、青森県立美術館で現代美術に触れました。夜は桟敷席からねぶた祭りを楽しみ、山車の動きや踊りのエネルギーに圧倒されました。一日を通して青森の歴史や文化に触れ、心に残る旅となりました。

（東京都・50代）



いつか見たかった、マングローブの森。

テレビの自然番組などで見て、いつか訪れたいと思っていたマングローブの森。個人ではなかなか行きにくい西表島ですが、今回の船旅ではジャングルクルーズに参加し、念願の森をじっくり眺めることができました。画面越しとは違う、目の前に広がる森の姿にとても感激しました。

（山口県・70代）

砂山の先に広がる絶景。

鳥取砂丘と砂の美術館が素晴らしかったです。苦労して砂山を登り、てっぺんから眺めた日本海の美しさには感動しました。短いツアーでしたが、こんなに心を動かされる景色に出会えて、本当によかったです。

（福岡県・80代）

韓流スター気分で散策。

娘夫婦と訪れた釜山では、昼食にタコ鍋をいただき、甘川文化村へ。韓服を借りて街を歩けば、気分はすっかり韓流スターでした。写真映えするスポットで撮影したり、カフェでひと休みしたりと、とびきりの思い出ができました。

（高知県・50代）

夕日に染まる知床半島。

「飛んでクルーズ北海道」が始まった年に、にっぽん丸に初乗船しました。知床半島の海岸線近くをゆっくり進む船から眺めた夕景は、静かな波音と相まって幻想的でした。船旅ならではの忘れられない体験です。

（兵庫県・60代）

ウミガメと記念撮影。

座間味島でシュノーケリングを楽しみ、アオウミガメとタイマイの2種類のウミガメに出会って記念撮影ができました。透明な海では、色鮮やかなサンゴや魚もよく見え、大満足の一日になりました。

（大阪府・20代）

MITSUI OCEAN CRUISES

その上質な滞在を楽しむクルーズ船は、海に浮かぶひとつの芸術作品といえる。
三井オーシャンクルーズの細部に宿る美意識や哲学の謎をひも解いていきます。

船に宿る、美しい謎。

Vol.3



船と港を結ぶ、記念盾の謎とは？

謎1 記念盾に込められた意味とは？





初めて訪れる港と交わす記念盾は、船と港の友好のしるしです。港からは歓迎の気持ちを、船からは出会いへの感謝を。互いを象徴する意匠をあしらった盾には、これからの交流への願いが込められています。

三井オーシャンフジの記念盾は船体と富士山を施した意匠。これに合わせ、今年新規就航した三井オーシャンサクラの記念盾は船体と桜をあしらいました。三井オーシャンサクラの盾は当初、黒地に蒔絵のように桜を彩る案を検討し、試作品も製作。最終的には、上質感と姉妹船である三井オーシャンフジの盾と対になる美しさを重視し、シルバー一色を選びました。富士山と桜、それぞれの船の個性を映した盾は、初めての出会いを形に残し、船が旅立った後も、港とのつながりを伝えていきます。

謎2 寄港地と交わした盾は、どこへ？

各港から贈られた記念盾は、船内に飾られ、旅をともにしているのをご存じでしょうか。三井オーシャンフジでは、デッキ5のらせん階段近くに展示。名産品や景勝地をあしらったものなど、その意匠はさまざまです。船を迎える土地の個性が表れた盾は、眺めるだけでも楽しく、港の名をたどれば、これまでの船旅の足跡も見えてきます。訪れたことのある土地を懐かしんだり、まだ知らない港に興味をひかれたり。小さな盾を通して、旅の楽しみが広がります。

初入港の際の贈り物は、盾だけではありません。名産品や工芸品などが届けられることもあります。三井オーシャンサクラも、船籍港である東京港で盛大な歓迎を受け、お酒や江戸切子のグラスなどが贈られました。その土地ならではの品々には、船を迎える地域の人々の温かな気持ちが込められています。



ご乗船の際は、ぜひ船内の盾に目を向けてみてください。三井オーシャンサクラにも、これから新たな港との出会いとともに盾が増え、旅の記憶が重なっていきます。⚓

INFORMATION

MITSUI OCEAN FUJI「2028年 感動航海オセアニア」を発表
7つの地域15寄港地を巡る49日間

横浜発着で15の寄港地を巡る「2028年感動航海オセアニア～オーストラリア東海岸・世界遺産タスマニアとニュージーランドクルーズ～」。当社として23年ぶりとなるオセアニアクルーズで、世界遺産や雄大な自然、船内のテイスティングと連動したワイナリー訪問など、多彩な寄港地観光ツアーを企画。三井オーシャンフジで、暮らすような船旅をお楽しみください。



シドニー・オペラハウス ※画像はイメージです。

日程 ｜2028年1月19日(水)～3月7日(火)48泊49日・横浜発着
販売開始｜2026年11月30日(月)
詳細はパンフレットおよび公式ウェブサイトをご覧ください。

説明会 ｜東京・神戸・名古屋・福岡にて開催
(参加無料／事前予約制)
詳細・ご予約は右の二次元コードをご覧ください。

MITSUI OCEAN FUJIが「星空を楽しめる宿認定」を取得

星空の観賞環境や設備、サービスなどが評価され、クルーズ船で初めて最上位の三ツ星を取得しました。サンライズ・デッキやベランダ付きの客室から、洋上ならではの美しい星空をお楽しみいただけます。
※天候や航路により、星空をご覧いただけない場合があります。

「クルーズEXPO 2026 東京」に出展します

詳しくはこちら

船旅の魅力に触れる出展ブースやトークショーなどが楽しめるイベントに、当社も出展します。次の船旅の楽しみを見つけに、ぜひお越しください。(入場無料)

日程 ｜2026年12月5日(土)・6日(日)10:00～17:00
会場 ｜東京国際クルーズターミナル 3階 多目的エリア

MITSUI OCEAN CLUB 会員募集中

詳しくはこちら

三井オーシャンクルーズの船旅をより豊かに楽しむための会員組織です。ご乗船経験を問わず、どなたでもご入会可能。各種割引や優先案内など、船旅を彩るさまざまなサービスをご用意しています。

アンケートのお願い

アンケートにお答えいただいた方の中から、抽選で各1名様に下記いずれかのご希望の賞品をプレゼントいたします。

［A］折り畳み保冷エコバッグ(紺)＋タオルハンカチ(ブルー) 合計3,500円
［B］折り畳み保冷エコバッグ(ピンク)＋タオルハンカチ(グレー) 合計3,500円



賞品A



賞品B

●アンケート項目

Q1. 今号で一番良かった企画の番号と理由をお聞かせください。
Q2. 本誌のご感想やご意見をお聞かせください。
Q3. 今後、本誌で企画してほしいテーマを教えてください。
Q4. 船内で企画してほしいイベントや寄港地観光ツアーで行ってみたい場所、体験してみたいことを教えてください。

Q1は下記より番号をお選びください。
① 表紙
②［特集］新しい船旅が、花開く。
③［連載］三好和義 旅の記憶
④［連載］お客様の乗船便り
⑤［連載］船に宿る、美しい謎。
⑥ INFORMATION

Q5. 船旅で心に残っている出来事や思い出をお聞かせください。(ご乗船経験のある方・任意)

●応募方法

WEB ｜右の二次元コードからお答えください。通信料はお客様のご負担となります、ご了承ください。
はがき ｜アンケートのお答え(Q1～5)とご希望のプレゼントのアルファベット、住所、氏名、性別、生年月日、電話番号を明記のうえ、下記までお送りください。
［宛先］〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目8-1 虎ノ門ダイビルイースト6階 商船三井クルーズ「海」103号プレゼント係
締切 ｜［WEB］2027年1月31日(日)23:59 ［はがき］2027年1月31日(日)の消印まで有効

※当選者の発表は、賞品の発送をもって代えさせていただきます。賞品の発送は応募締切から1か月以内を予定しております。諸事情により遅れる場合がございますので、あらかじめご了承ください。※ご記入いただいた個人情報は、当社のプライバシーポリシー(https://www.mitsuioceancruises.com/privacy/)に定める「個人情報の利用目的」に基づき適切に取り扱います。